表　シンガポールの6つのエネルギー・インフラの整備計画と目標

エネルギー・インフラ	現行	2030～31年までの計画	2032年以降の計画
(1)発電所	ガス発電所20カ所 設備容量：約12ギガワット（GW）	2031年までに新規稼働予定：5基 設備容量26%拡大へ	新たな天然ガス焚き発電所が2032年までに稼働予定 テコン島に新たなエネルギーインフラ集積拠点（注）
(2)天然ガス	発電燃料の約9割が液化天然ガス（LNG）を含む天然ガス	2030年までに2基目のLNGターミナル建設 再ガス化能力：年間1,000万トンから1,500万トンへ拡大	1基目のLNGターミナルの拡張を検討 テコン島のエネルギー集積拠点にガス関連設備整備の構想
(3)パワーグリッド	送電線網：全長約7,700キロ 電力用トンネル：全長約50キロ	2031年までの送電線網：約9,100キロ 新設予定の送電用変電所：7カ所	電力用トンネルの総延長、最大約3倍に延長する実現可能性調査中
(4)太陽光	太陽光発電容量：2.3ギガワットピーク（GWp）	2030年までの太陽光発電容量：3GWp	2035年までの太陽光発電容量：4GWp
(5)エネルギー貯蔵（ESS）	エネルギー容量：350メガワット時（MWh）	2030年までのエネルギー容量：1ギガワット時（GWh）	ESS導入拡大へ
(6)電力輸入	最大1GW （シンガポール・マレーシア間）	2つ目のシンガポール・マレーシア間電力連系線による電力輸入の実現可能性調査：2030年までに2GW	電力輸入拡大に応じて、追加の受電施設整備の可能性

（注）テコン島のエネルギー・インフラ整備についてはビジネス短信（2026年10月13日）参照。

（出所）エネルギー市場監督庁（EMA）2026年10月26日付報道発表